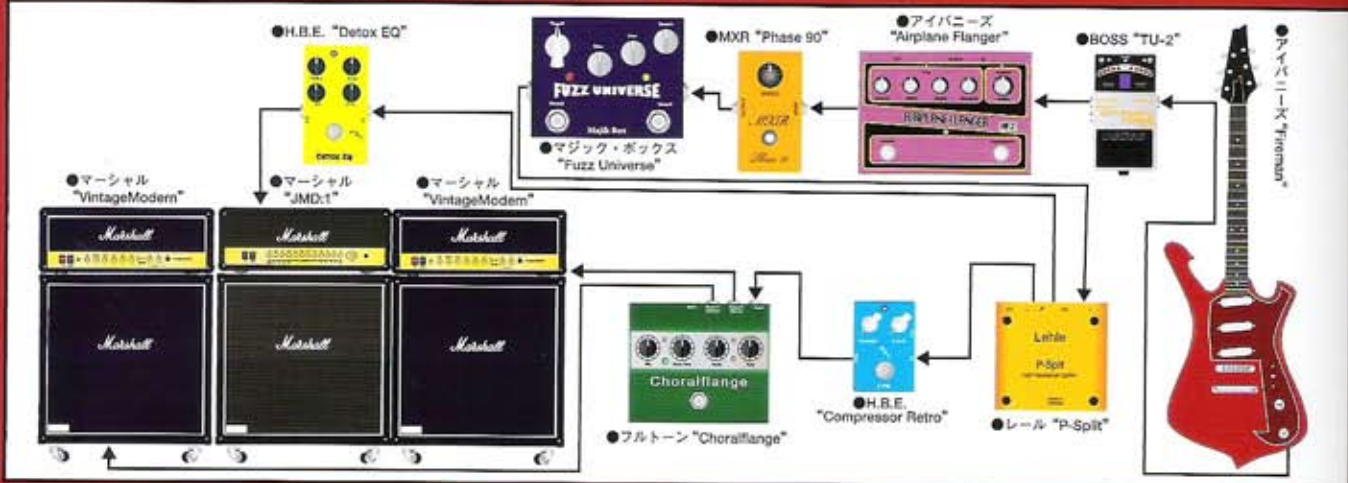


図1 ■ステレオ・サウンドを導入した現在のボールのsセッティング



**A YAMAHA Attitude**  
4ピリーが長年愛用するデュアル・アウトプット仕様  
のベース。これはその最新モデルで、ネック・ジョイ  
ント部分等に改良が加えられているようだ。



**B Amplifiers**  
▲総てハードキーで、上の2つは高消費のパワー・アンプ  
"HA5500" (下側がスベア)、下の3つは低消費の "LH1000"  
(真ん中にはコンプレッサーを接続、一番下がスベア)。

図1が現在のボールのサウンド・システムを図式化したものだ。まずギターからの信号はBOSSのチューナー"TU-2"~マジック・ボックスのオーヴァードライブ"Fuzz Universe"のペダル類を通過、レールのスプリッター"P-Split"を経て、H.B.E.のイコライザー"Detox EQ"を途中に挟みマーシャル"JMD:1"へと至る。ここがシステムの核となるラインだ。"JMD:1"に搭載された16種類のプリ・アンプの内、ボールは"Lead 15"を使用している。

前述のスプリッターからもう1つの信号が分岐され、H.B.E.のコンプレッサー"Compressor Retro"を通過し、フルトーンのコーラス/フランジャー"Choralflange"でステレオ化し、2台の"Vintage Modern"へと送られる。ここから

出力されるサウンドが、"JMD:1"で作った音の芯に更なる広がりを入れているわけだ。ギター・テク氏によれば、アタックでトレブリーなサウンドを得るためにこういったセッティングにしているらしい。

歪みサウンドの要となっているのは"Fuzz Universe"。オーヴァードライブとブースターの2機能を1台に凝縮したペダルで、例えば「Undertow」を演奏する最中にも、パートごとにこのペダルの歪みを調整に切り替えている事が確認出来た。

"JMD:1"の手前にH.B.E. "Detox EQ"が接続されており、このオン/オフ切り替えで音のヴァリエーションを実質2倍に増やしているようだ。このペダルが比較的操作性しやすい位置に設置されているのはそのためだろう。(図と解説●安楽亮)



**C Amp & Effects**  
▲最上段左はDIで、右がロールズのシグナル・プロセッサー"SX21"。その下から、高消費のプリ・アンプであるピアース・エレクトロニクスの"BC1"、アシュリーのコンプレッサー/リミッター"CLX-52"、ISPのノイズ・リダクション・システム"Decimator"、コルグのチューナー"DTR-2000"。



**D Cabinets**  
▲キャビネットも総てハードキー。上段左から"AK410" "AK115" "AK410" "AK115"の順に並んでおり、下段も同様の並びだ。

## Billy's Gear